



あきた 羽州街道 時を超えた散歩道

秋田式街道
ウォーキングの
ススメ

発行 平成31年3月発行、令和2年4月一部改訂、
令和4年3月一部改訂
秋田市観光文化スポーツ部文化振興課
〒010-8560 秋田市山王一丁目1番1号
☎018-888-5607 FAX ro-edcl@city.akita.lg.jp



秋田市

寛政から文化の歴史景観を歩く

あきた羽州街道



～ 時 を 超 え た 散 歩 道 ～

秋田式街道ウォーキングのススメ

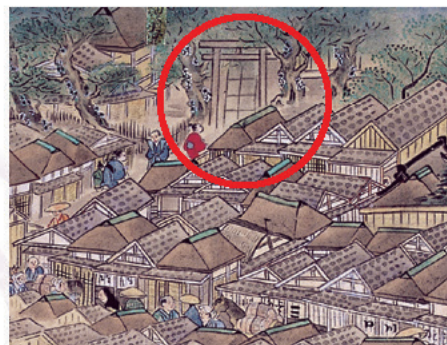
「夏草や兵どもが夢の跡」

岩手県平泉を訪れた松尾芭蕉は、夏草が生い茂る風景に歴史の残影を見て、名句を残しました。私たちは、先人の生き様に共感し、年月を経た神社仏閣に心のやすらぎを覚え、建物を失った城跡の石垣や土塁に往時の繁栄を想起します。歴史は書物で知り、目で楽しむだけのものではなく、心で感じるものなのではないでしょうか。

歴史にはさまざまな楽しみ方があります。文化財

の鑑賞、史跡や博物館めぐりのほかに近年、人気が高まっているのが古い道を探訪する「街道ウォーキング」です。点在する文化財や神社、城跡といった歴史の名残りを自分のペースで、点ではなく線で、あるいは面で捉える楽しみ方です。

そこで提案したいのが、かつて東北地方の大動脈だった羽州街道を、秋田街道絵巻を地図にして歩く、新しいスタイル。福島県の桑折（こおり）から宮城、山形、秋田、青森の油川に至る旧羽州街道は、多くの旅人が行き交った魅力あふれる古街道です。



秋田街道絵巻の中の土崎神社
(下の絵巻の中からさがしてみましょう)



現在の土崎神社

秋田市における羽州街道は、和田・戸島の三つの渡りで岩見川を越え、佐竹20万石の城下町・久保田、北前船の寄港地・土崎を通り、男鹿街道との追分を過ぎて北上します。その沿線は、有形・無形の文化財や文化施設が点在する史跡めぐりコース。ここを「秋田街道絵巻」という「景観のタイムカプセル」を通して、時を超えたウォーキングができるのが、秋田市の羽州街道ならではの魅力です。

秋田街道絵巻は18世紀末から19世紀初頭の寛政から文化の年号・時代に秋田藩士・荻津勝孝(お

ぎつかつたか)によって描かれたと考えられています。全3巻のうち上巻は、八橋一里塚から土崎まで。街道の風景や行き交う人々の姿が活き活きと表現されています。

このガイドブックには、絵巻に描かれた約220年前と現在とを見比べ楽しむための仕掛けを盛り込みました。歴史探訪や史跡めぐりの新しいスタイルとして、ガイドブックを片手に気分は江戸時代の旅人。時を超えた街道ウォーキングをお楽しみください。



羽州街道への誘い

～福島から青森へ秋田を縦断する歴史の道～



羽州街道は江戸時代、どのようなルートをとっていたのでしょうか。

奥州街道から桑折で分かれた羽州街道は、宮城県を経て奥羽山脈を越え、現在の山形県を通過。山形市、尾花沢市、新庄市を過ぎ院内(雄勝)峠を越え、秋田県に入りました。

県内では、現在の湯沢市、横手市、大仙市を通り、秋田市河辺和田へ。そこから戸島、御所野、仁井田、牛島、榎山を通り、久保田城下を抜けて八橋、寺内、土崎、中野、追分へと進みます。追分で男鹿街道と分かれ、八郎潟の東側を進み、大館市から矢立峠を越えて現在の青森県に入りました。弘前市を過ぎると、油川でまた奥州街道と合流します。羽州街道は、交通、流通の要であった歴史の道でした。

江戸時代の菅江真澄、明治時代のイザベラ・バードなどが旅の記録を残しています。



秋田市の羽州街道

～街道沿いに残る歴史の名残～



本『ウォーキングガイド』では、上図の4地域と久保田城跡(千秋公園)のモデルコースを紹介しています。外町より南、土崎より北の羽州街道の紹介はP34～P37をご覧ください。

ガイド片手にLet's walking!!

～このガイドを使った秋田式街道ウォーキングの楽しみ方をご紹介します～

モデルコース紹介エリアは4+1

街道歩きのコースは無限に広がりますが、このウォーキングガイドでは、文化施設や文化財・建造物の多い外町、秋田街道絵巻と見比べながら歩ける八橋、寺内、土崎、そして羽州街道を駆けた与次郎狐(稲荷)が祀られている久保田城跡(千秋公園)の五つのエリアをモデルコースとして紹介しています。

各エリアは一つで約2時間、5回にわけて回るもよし、半日で2～3エリアを巡るもよし、1日完全踏破を目指すもよし、各自の体力、ペースにあわせお楽しみ下さい。



ウォーキングのスタート、ゴールへのアクセス

秋田駅西口から、ウォーキングコース上のスタート・ゴールなどへのアクセスを紹介します。

	秋田駅西口から	バス路線	バス停
久保田城跡(千秋公園)	①千秋公園	徒歩約10分	県庁中央交通線など 千秋公園入口
	②エリアなかいち	徒歩約10分	県庁中央交通線など 千秋公園入口
外町	①刈穂橋	徒歩約30分	大住みなみ野団地線など 登町上丁
	②赤れんが郷土館	徒歩約15分	県庁中央交通線など 川反入口
	③民俗芸能伝承館	徒歩約15分	通町・寺内経由将軍野線など 通町二区
	④六道の辻	徒歩約25分	通町・寺内経由将軍野線など 旭北栄町
八橋	①八橋一里塚跡	徒歩約35分	通町・寺内経由将軍野線など 球技場前
	②面影橋	徒歩約45分	通町・寺内経由将軍野線など 面影橋
	③油田の一本松跡	徒歩約50分	通町・寺内経由将軍野線など みそのホーム前
寺内	①古四王神社	車で約15分	通町・寺内経由将軍野線など 寺内地域センター前
	②秋田城跡歴史資料館	車で約20分	通町・寺内経由将軍野線など 秋田城跡歴史資料館前
土崎	①土崎駅	JR奥羽本線で7分	
	②土崎みなと歴史伝承館	車で約20分	寺内経由土崎線、追分線など 土崎郵便局前
	③道の駅あきた港	車で約20分	セリオン線など セリオン

QRコードでタイムスリップ



ガイドブックのなかにスタート・ゴールバー(図見本)となるたくさんのQRコードがあります。このコードをスマートフォンなどで読み込んでみて下さい。秋田街道絵巻など、その場所の昔の景色を見ることが出来ます。今と昔を見比べながら、秋田市ならではの街道歩きをお楽しみ下さい。



楽しみアラカルト

文化施設や文化財を巡る

昔も今も「道はつなぐもの」。秋田市の羽州街道沿いには、歴史や文化を楽しめる文化施設や、町家、神社仏閣、史跡などの文化財が点在しています。歴史スポットを羽州街道のキーワードで結んだウォーキングガイド片手に文化施設・文化財巡りをお楽しみ下さい。

歴史の謎を解く

歴史には謎が一杯。歩き、見ることで、ある時は謎を解き明かし、またある時は新たな謎に気がつくことがあります。たとえば、このガイドブックでたくさん紹介している秋田街道絵巻。220年前の景色を伝えていますが、何年から何年の間に描かれたものでしょうか？ 答えは24～26ページに散りばめられていますのでご覧ください。ウォーキングを通して新たな歴史の謎を探してみてください。

PR映像「羽州街道を往く」

このウォーキングガイドとあわせて楽しむPR映像を公開しています。旧金子家住宅(入館有料)、秋田城跡歴史資料館(入館有料)、土崎みなと歴史伝承館(入館無料)で上映しています。秋田市公式YouTubeチャンネルでもご覧いただけます。

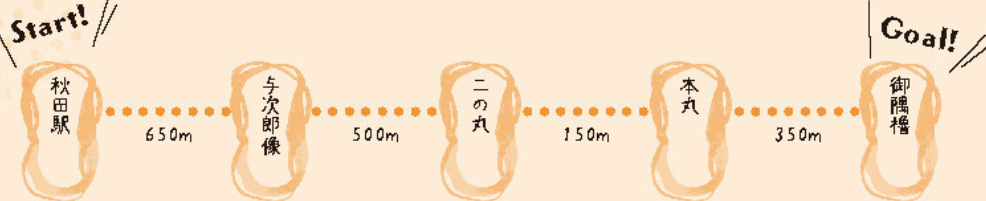
詳しくは、秋田市文化振興課ホームページの「秋田市の羽州街道」に情報をよりこんでいますのでご覧ください。(ウラ表紙のQRコードが便利です)

街道歩きの諸注意

- 紹介しているコースには特別危険な場所、足下の悪い場所はありませんが、歩きやすい服装、靴で身軽に街道歩きを楽しみましょう。
- 持ち物は、このウォーキングガイドがあれば歩けます。QRコードを読み込むスマートフォン、カメラ、方角を確認する磁石、軽食や飲み物を用意するとさらに楽しく歩けます。
- 何よりも交通事故に気をつけて、個人宅・敷地には立ち入らないようお願いします。
- お寺や神社は信仰の場所です。犬の散歩など、場所によって禁止されている行為や、大声を出すなどの迷惑行為はご遠慮ください。また、通常は開放していても、仏事や神事を行っているときがありますので、状況に応じた確認、お声がけなどをお願いします。

久保田城跡 (千秋公園)

～羽州街道を駆けた飛脚狐と殿様の絆物語～



羽州街道に入る前にぜひ立ち寄りたいのが、久保田城跡・千秋公園(せんしゅうこうえん)(市指定文化財・名勝)です。秋田駅西口から広小路を徒歩約5分。右に視界が開け、久保田城跡のお堀が見えてきます。左の秋田県立美術館・にぎわい交流館AU(あう)の前には、ひげをはやした可愛い石像があります。エリアなかいちの



エリアなかいちの mascot character、与次郎です。秋田藩初代藩主・佐竹義宣(よしのぶ)公に仕えたとの伝説がある「狐の飛脚」です。



秋田市立佐竹史料館

秋田藩主佐竹氏や秋田藩に関する資料を展示し、江戸時代の秋田の歴史と文化を紹介しています。

千秋公園1-4(千秋公園二の丸) 電話 018-832-7892
 観覧料：一般100円 高校生以下無料
 開館時間：9:00～16:30
 休館日：年末年始・展示替期間
 令和4年6月末から休館予定

与次郎と名付けられた狐は、秋田・江戸間を6日間で往復するなど殿様のために働いていましたが、与次郎の活躍で仕事が少なくなった六田の飛脚宿(現在の山形県東根市)の人たちにより殺されてしまいました。その死を悲しんだ義宣公は、与次郎を祀る神社を建立。それが現在、千秋公園本丸にある与次郎稲荷神社です。

赤い鳥居がまるで歴史のタイムトンネルのように連なり、そこにはさまざまな表情の狐の像がたたずんでいます。



本丸の与次郎稲荷神社。羽州街道を駆けた飛脚狐の伝説が伝えられています。城跡には、八幡秋田神社、彌高(いやたか)神社など秋田の先人を祀った神社が鎮座しています。



久保田城は、石垣や天守を持たない日本有数の土塁の城。城跡は明治29年に近代公園設計の先駆者・長岡安平の設計により公園として整備されました。



桜、ツツジ、お堀のハスなど四季折々の花々が美しく、城内に唯一残る建造物・御物頭御番所(おものがらごばんしよ)(市指定文化財・建造物)、再建された御鷹橋(おすみやぐら)、表門、佐竹史料館などがあります。

秋田犬ふれあい処 in 千秋公園
 秋田犬とふれあえるスポット
 隣接する売店では秋田犬関連グッズも販売しています。
 時間：11:00～15:00
 期間：例年6月～10月に開設
 (詳細は秋田観光コンベンション協会 ☎018-824-8686にお問い合わせ下さい)

久保田城跡
 無料で久保田城跡・千秋公園の歴史・見所をご案内します
 時間：9:00～15:30
 期間：4月上旬～11月上旬の土日祝日
 (GW、竿燈まつり期間、JR大人の休日(倶楽部)バス期間は毎日常駐)
 申込み先：佐竹史料館 ☎018-832-7892

外町 TOMACHI AREA

～町家 蔵 赤れんが～

竿燈の町は文化財の宝庫～



稲 穂をかたどったとも言われる提灯のあかりが夏の夜空を彩る秋田の竿燈。

勇壮なお囃子と「どっこいしょ」のかけ声のなか、卓越した技が披露される竿燈大通りをまたぐように羽州街道は、佐竹20万石の城下町の

なかの町人の町・外町を南北に走っています。街道沿いには、江戸から明治の町人の暮らしぶりを伝える町家、商店、酒蔵、赤れんがの洋風建築などが遺されており、城下町特有の町並を楽しむことができます。

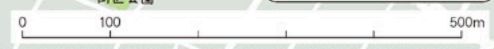


竿燈



戦前の外町の町並みや川反(旭川沿い)の様子

- 凡例
- 羽州街道
 - ウォーキングのモデルコース
 - 主なバス停
 - PR映像で紹介している物件
 - ホテル
 - コンビニエンスストア
 - 標柱、石柱、石碑、説明板など





1 Start
1
刈穂橋

外町の南の入り口

エリアなかいち・与次郎像前から西に進むと直線的な川に突き当たります。旭川です。旭川から東側が武士町の内町、橋を渡った西側が町人町・外町です。旭川沿いを南に進んだ刈穂橋をスタートにしましょう。

刈穂橋では、竿燈まつりの翌朝、行事の締めくくりとして、竿燈の先に付けていた御幣(ごへい)を旭川に流します。

橋の西側には久保田城下に荷物を運んだ船着場がありました。橋を渡ってまっすぐの道は日本海沿いに酒田へ向かう酒田街道(羽州浜街道)、羽州街道は、橋を渡ってすぐ、旭南郵便局を右に曲がります。

2
旧松倉家住宅

江戸時代の町並の美しき名残



二つの街道の分岐点であったこのエリアは馬口労町。伝馬や馬宿が置かれた交通の要所でした。刈穂橋から真っ直ぐに進んだ右側に旧松倉家住宅(県指定文化財・建造物)があります。正面が約17m、奥行きは約34m、県内最大級の町家です。

現在、内部は公開していませんが、修復整備工事が計画されており、工事終了後、一般公開の予定です(平成31年3月現在)。旭南郵便局の角に戻り、羽州街道を北に進みます。



旧松倉家住宅

3
土蔵が息づくみち
新政酒造、感恩講

昔の感恩講蔵を見よう。



金神社のある鍛冶町を過ぎると、どっしりとした白い土蔵群が見えてきます。秋田を代表する酒蔵「新政酒造」(国登録有形文化財)です。屋根の庇を支える方柱が美しく、北国の土蔵らしさを備えています。

新政酒造の北隣の公園は、佐竹家の御用町人だった那波家が、日本で初めて設立した民間慈善団体「感恩講」発祥の地。窮民救済や児童福祉を行ってまいりました。新政酒造の土蔵群のうち、北側の「旧感恩講東初蔵及び米蔵・西初蔵」は感恩講の米蔵を受け継いでいます。



感恩講発祥の地に立つ石碑



旧感恩講西初蔵

4
由緒ある茶町通り
那波紙店

昔の大町の姿を見よう



羽州街道を進み、二つ目の交差点を左に曲がると、黒板の趣ある建物が見えてきます。

明治11年創業の「那波紙店」(国登録有形文化財)で、大きな看板と化粧梁が見事。明治19年の俵屋火事で市街の多くの建物が焼失した後、港町・土崎にあった町家を移築したものです。

外町で最も古い建物の可能性が高く、すぐ近くには大正時代に建てられた和洋折衷構造をもつ倉庫も残っています。

那波紙店正面の通りは、旧松倉家住宅へと続く道。実はここは、羽州街道が整備された当初の街道でした。

「茶町通り」として栄え、お茶や菓子、日用品を扱う店が軒を連ねました。現在もあちらこちらにその名残子を見ることが出来ます。



那波紙店

5
仕麗な造りの赤れんが
赤れんが郷土館

建てられた頃の赤れんがの姿を見よう。



茶町通りから大町通り・羽州街道に戻り北に進みます。ヒマラヤ杉とのコントラストが美しいれんが造りの建物が、明治45年に建築された旧秋田銀行本店本館、現在の「赤れんが郷土館」(国重要文化財)です。

男鹿石を土台に1階が磁器白タイル、2階が赤れんがという美しいルネサンス様式の外観。バロック様式を取り入れた内部は、天井のレリーフや漆喰の精巧な造りが見る人を魅了します。

館内では、人間国宝の鍛金家・関谷四郎や秋田の町並・暮らしを描いた版画家・勝平得之の作品などを鑑賞することができます。



赤れんが郷土館

電話	018-864-6851
時間	9:30 ~ 16:30
観覧料	一般210円 高校生以下無料
休館日	年末年始 (12/29 ~ 1/3) 展示替期間



もうひとつの赤れんが

羽州街道から少し離れますが、外町には、もう一つの赤れんがの建物がありました。横町通りに建てられた国登録有形文化財、旧大島商会店舗です。アーチ状の入り口、窓が印象的な洋館は、もともとは明治34年に建てられた県内最初の百貨店でした。秋田の名産品に加え、帽子や靴、傘などおしゃれな商品が人気でした。この建物は、道路拡張工事のため、令和3年に大町一丁目の羽州街道の東の通りに移築・再現され新たに「秋田市まちなか観光案内所」として、文化財建造物が多く残る旧久保田城下町めぐりなどの観光案内の拠点として活用されています。



旧大島商会店舗(移築前)

刈穂橋での御幣流し

6

秋田県里程元標跡・明治天皇行在所

戦前の里程元標を見てみよう。



赤れんが郷土館の前にあるのが秋田県里程元標跡。明治時代に秋田県内の道路の起点として定めた場所の跡です。全国の道路の起点は東京の日本橋です。

斜め向かいには、明治14年、明治天皇が東北を巡幸した際の行在所の記念碑があります。



秋田県里程元標跡



日本橋の日本国道路元標(複製)

8分

7

商家の趣 旧金子家住宅 民俗芸能伝承館で竿燈体験

昭和初期の金子家住宅を見てみよう。



羽州街道をさらに北へ進むと「竿燈大通り」に出ます。

現在は「竿燈まつり」のメイン会場であり秋田駅と官庁街をつなぐ大通りですが、もともとは他の横道と同じような小路でした。

竿燈大通りをわたり、まっすぐに進むと、左側に紺色の「のれん」がかかった町家が見えます。旧金子家住宅です。明治20年頃の建物ですが、江戸時代の町家の形式を良く伝えています。建物の中に入ると、雪国特有のコミセ、店と土蔵を結ぶ細長い土間など城下町の町家の雰囲気を楽しめます。

隣にあるのが、民俗芸能伝承館(ねぶり流し館)。竿燈をはじめとした秋田市のお祭り、郷土芸能などを紹介するとともに、竿燈の実演、体験を楽しめます。



旧金子家住宅と民俗芸能伝承館



民俗芸能伝承館の竿燈実演 (4月～10月の土・日・祝日)

民俗芸能伝承館・旧金子家住宅

電話	018-866-7091
時間	9:30 ~ 16:30
観覧料	一般100円 高校生以下無料
休館日	年末年始 (12/29 ~ 1/3)

秋田市観光案内人

地元情報をわかりやすく、より深くご案内します

【時間】9:00 ~ 17:00

秋田市内および周辺、市街地から出発～帰着が原則

【申込み先】希望日の前日まで 秋田観光コンベンション協会

TEL.018-824-8686

秋田駅構内秋田市観光案内所

TEL.018-832-7941

【有料】1時間 1,000円

3分

8

秋田風俗絵巻に描かれた賑わい 通町、高砂堂店舗

200年前のにぎわいを見てみよう。



旧金子家住宅を過ぎるとT字路があり、羽州街道はここを左に曲がります。ここからは「通町」です。

秋田風俗絵巻には、市(いち)の日に日用品や食料品を求める人で賑わう様子が生き生きと描かれています。

太鼓を売る店の裏側、ちょうど旧金子家住宅のあたりには、屋根の上の天水桶・甕(防火用水)が描かれています。ぜひ見比べてみてください。

通町の千秋公園側にある「高砂堂店舗」(国登録有形文化財)は、和風の外観と洋風の内装をもった大正時代の建物です。

通町の道路が拡幅された際には、曳家を行うことで歴史ある風景が守られています。



高砂堂店舗

check!

大正7年建築の老舗菓子店

11分

9

Goal

ねじれている道の意味 六道の辻

絵図に描かれた六道の辻を見てみよう。



通町を西に進むと、ねじれた交差点に当たります。

ここは北部から城下に入る際の出入り口で、城の虎口のように通りにくく造られ、緊急時には閉鎖できるような脇に土塁と水堀が築かれていました。

六道の辻の周辺から竿燈大通りをまわって、城下町の西の壁のようにお寺が建ち並んでいるのが寺町です。道がかくかくと曲がる不思議な通りには、町の喧噪をはなれた静かな時が流れています。



羽州街道の近くにある鱗勝院の山門。久保田城の裏門を移築したと伝えられる。



久保田城跡(千秋公園)裏門跡



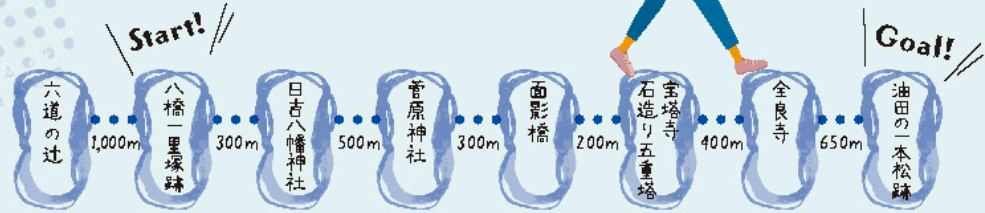
寺町の通り

六道の辻



八橋 YABASE AREA

～絵巻とともに往く 時を超えた街道歩き
スタートは八橋一里塚～



外 町の総鎮守である日吉八幡(ひえはちま
ん)神社が鎮座する八橋は、お寺や神社へ
のお参り、四季折々のお花見など、江戸時代は久
保田城下郊外の行楽地としてにぎわいました。街
道沿いには、名所の名残が今も見られます。

そして、ここからは、荻津勝孝が約220年前
の街道の景色を描いたとされる秋田街道絵巻
により、昔と今を見比べながら歩くことができ
ます。秋田市でしかできない時を超えた街道歩
きを八橋からスタートしましょう。



日吉八幡神社

三重塔





Start 1
八橋地区スタート
 いよいよ絵巻の世界へ

六道の辻を背に県道56号(通称新国道)を横切り、その先をまっすぐ進んで行くと、けやき通りとの交差点に出ます。この付近が、街道絵巻のプロローグ「矢橋村」の入口となります。
 ここからは、QRコードで街道絵巻に描かれた220年前の景色と見所を紹介します。



日国道とけやき通りの交差点へ向かう道路

2
八橋一里塚跡
 絵巻の一里塚はどんな感じだったのかな。

けやき通りとの交差点を横断しながら、視線を左へ向けてみると、中央分離帯に白い柱のようなものが見えます。実は、これこそが、今歩いている道が羽州街道であったことの証、一里塚跡を示す標柱です。
 街道絵巻では、一里塚から久保田城や天徳寺が見えます。



一里塚跡

3
日吉八幡神社へのT字路
 下の写真の場所は昔はこんな景色。

横断歩道を渡って間もなく、左手からの道と交わるT字路に差し掛かります。羽州街道から左にそれる道路もまた、古くからの道。八橋運動公園に向かうこの道路には、日吉八幡神社、寿量院、神明堂などの神社やお寺が建ち並ぶ様子が街道絵巻に描かれています。

今は、日吉八幡神社(県指定文化財・建造物)のみが鎮座しています。
 標柱の立つ寿量院の門は日吉八幡神社の随神門に、御霊屋(おたまや)は菅原神社に移築されています。



八橋運動公園に向かう道路



寿量院跡の遠景

4
日吉八幡神社
 古くからの名所。戦前の絵はかき。

日吉八幡神社には、三重塔やお寺であった寿量院の山門を移した随神門があり、神道と仏教を神様仏様として一体的に信仰していた神仏混淆の時代を偲ばせてくれます。
 江戸時代は城下では指折りの桜の名所でした。松やけやきの大木に囲まれた境内は厳かな雰囲気にも包まれています。しかし、境内を囲む木々を抜けると、そこはスタジアム。アスリートが躍動する秋田のスポーツの聖地です。
 スタジアムから、境内に入ると、まるで現代から江戸時代にタイムスリップする感じがします。

5
不動院
 絵巻の庚申堂かな?

さて、日吉八幡神社参道の街道を挟んだ向かい側には、びっくりするほど大きな石碑があります。庚申塚がたくさんある不動院です。
 碑文には、庚申の文字が。庚申信仰では、暦の庚申の日に、死を司る天帝にその人の悪事を報告する虫がその人の体の中から出てこないよう、夜通し起き続けていました。

不動院から見る八橋の通り



日吉八幡神社

6
菅原神社
 天神様・菅原道真公を祭神とする。学問の神様として信仰を集めています。

境内にはたくさんの庚申塚が、ところ狭しと並んでいます。

たくさんのお堂がある絵巻の八橋。天神堂見つかるかな?



不動院から見る八橋の通り

不動院を過ぎ、羽州街道を西に進むと右手に菅原神社が見えてきます。
 街道絵巻に天神堂と記された境内には、私塾の師匠が使った筆を納めたとされる市指定文化財の筆塚7基を始め、様々な記念碑や句碑があり、昔の人の願い、感謝の心を伝えています。



不動院前の大きな石碑



菅原神社

筆塚



筆塚



菅原神社から面影橋方面

日吉八幡神社の境内にいる動物

境内には、たくさんの「動物」がいます。「見ざる言わざる聞かざる」の三猿、狛犬や龍などもあります。一体、「動物」が何体いるのか、数えてみるのも楽しいでしょう。拝殿には巨大な蛸(たこ)の絵馬が奉納されています。日吉八幡神社の祭礼ではかつて、巨大な作り物(模型)が曳かれていました。この絵馬は、土崎神明社祭の曳山行事など、ユネスコ無形文化遺産に登録された山鉾屋台行事のうつり変わってきた姿を今に伝えています。
 日吉八幡神社は、「日本の歴史を感じて文化財・エッセンスの宝庫」です。

江戸時代の刑場に近く、
罪人が水面に映る自分の最後の
姿を見たという言い伝えを持つ橋。

宝塔寺境内の東の丘に建つ
花崗岩製の高さ9mを超える
五重塔。市指定文化財。

戊辰戦争で戦死した秋田藩や
援軍の薩摩、肥前などの、
藩士のお墓があります。

街道の
並木の
名残り？

check!

Goal

6分 4分 8分 13分

7 面影橋

川の流れは変わって
いますが、道の方向
は絵巻と同じ景色。

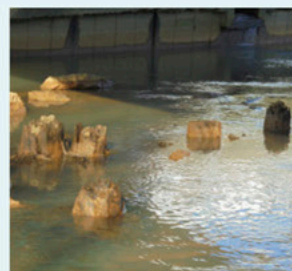


羽州街道は、菅原神社から
さらに西へ進んだところで、
草生津(くそうづ)川に差し掛
かります。絵巻では立派な木
橋であり、主要街道に対する
インフラ整備の一端を知ること
ができます。

石油の臭水を語源にする
と言われる草生津川には今も
石油採取を行うポンピングユ
ニットがあり、川岸は春は桜、
秋はコスモスの名所です。



草生津川



橋の下には謎の杭？

8 宝塔寺石造り五重塔

絵巻の中ではひっそ
りと立つ五重塔。
見つかるかな？



石造り五重塔

面影橋を渡った先で、道は
北へとカーブします。そのカー
ブを曲がり終えた辺りで、左
手に立つ白い案内板が目にと
まります。ここは、石造り五
重塔への入口。

北前船の時代、土崎湊へ入
港しようとした西国の商船が
難破しそうになった時、宝塔
寺の守護神である七面大明神
の燈明を頼りに入港すること
ができたため、そのお礼とし
て大坂から船で運び寄進した
といわれています。



石造り五重塔入口

9 全良寺

絵巻では、全良寺
裏山に登る人々の姿
が見えます。



全良寺官修墓地

石造り五重塔の入口から北
に進んだ先の左側には、全良寺
参道があります。

全良寺は、秋田藩の家老・
渋江家の菩提寺です。慶応4
年(1868)の戊辰戦争で戦死
した秋田藩および16藩の藩士
のお墓である官修墓地は市の
史跡に指定されています。

平安時代末期から鎌倉時代
初期の製作と考えられている
銅造阿弥陀如来坐像は、秋田
県内で唯一、国の重要文化財
(彫刻)に指定されている仏像
です。



全良寺参道

10 油田の一本松跡

植えたばかり? の
松の若木。



一本松に向かう上り坂

羽州街道はその後、ショッピ
ングモール・パブリを右に臨む
交差点を直進し、やがて緩やか
な上り坂にかかります。

以前は街道の並木が長く残っ
ていました。当時の風景を「種
蒔く人」同人であった今野賢三
氏は、「あの街道を歩いていく
と土崎の浜に舟が見えた。八橋
付近に来ると見事な松の並木が
あってひと息入れたものです」
と語っています。

街道絵巻には、一定間隔で植
栽された松の若木が描かれて
います。この若木は、寛政5年
(1793)頃に植えられたと言わ
れ、絵巻の年代をそれ以降とす
る説があります。描かれている
松の大きさから何年木に見える
でしょうか? 坂を上りきると
油田(あぶらでん)の一本松跡。
かつての街道並木の名残とも
言われましたが、令和2年に枯



油田の一本松
※平成30年8月撮影

死し、翌年に惜しまれながら伐
採されました。令和4年、その
歴史性や地域の要望を踏まえ、

一本の松が
植樹されました。



八橋のにぎわい

八橋の街は、秋田街道絵巻にとどまらず、他の絵巻や
随筆など多くの資料において、一大行楽地として描写さ
れています。見世物、芝居に茶屋や餅屋などなど、街道沿
いには数々の店が軒を連ね、街は行き交う人々で活気に



満ちあふれていました。

菅原神社へのお参りのお
土産として人気があっ
たのが八橋人形。街道絵
巻にも人形を売る店が描
かれていますが、現在も八
橋人形伝承の会によりつ
くり続けられています。



川沿いの花の名所



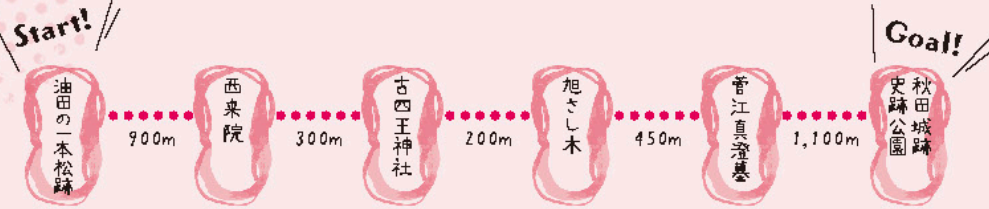
面影橋のかかる草
生津川は、江戸時代
前期の梅津政景日記
に「くさつづのあふ
ら」と書かれ、油田・石油に由来
する名前と言われ、その形から
「ウマツラ」「ホースヘッド」の
愛称で親しまれている採油機(ポ
ンピングユニット)を見ることが
できます。

川沿いの歩道は、花の名所。春
は桜、秋は地域の町内会、子供
会、NPOなどが大切に守り育
っているコスモスが見事です。



寺内 TERAUCHI AREA

～最北の古代城柵跡と
伝説に彩られた道 寺内～



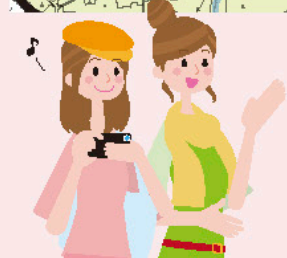
続 日本紀・天平五年(733)「出羽柵を秋田村高清水岡に遷置す」。寺内は、高清水の岡を中心とした最北の古代城柵・出羽柵、後の秋田城をはじめ史跡と伝説の多い地区です。長年の調査の成果に基づき復元された秋田城跡

史跡公園、さらには、古道と呼ばれ羽州街道以前の街道とも言われる道も残っています。秋田街道絵巻が描かれた年代を推理する鍵も寺内に多くあります。歴史の謎解きを探しながら歩いてみましょう。



秋田城跡
歴史資料館

電話	018-845-1837
時間	9:00～16:30
観覧料	一般210円、高校生以下無料、年間310円
休館日	年末年始(12月29日から1月3日まで)



- 凡例
- ウォーキングのモデルコース
 - 主なバス停
 - PR映像で紹介している物件
 - コンビニエンスストア
 - 標柱、石柱、石碑、説明板など

※寺内地区の羽州街道のルートは諸説あることから、ウォーキングのモデルコースのみ示しています。



Start

1

13分

2

5分

3

6分(古四王神社まで)

4

5

旧国道から東に分かれる道。道幅などから羽州街道そのものの可能性もあります。

街道絵巻が描かれた年代を推理する。

齊明天皇4年(658年)、鰐田(秋田)に来た阿倍比羅夫(あべのひらふ)が大彦命(おおひこのみこと)を祀ったと伝えられています。

絵巻の謎を探る 寺内へ

街道絵巻油田の坂。この坂は一体どこにあったのか。



街道並木の名残とも言われる油田の一本松跡からスタートしましょう。弘化3年(1846)の年号のある蜷(しじみ)塚・鶏卵塔を過ぎると右側が大きく低くなっている馬の背状の道。街道絵巻では、この先に油田の急坂があります。絵巻の景色と現在の道・通称旧国道との違いが大きく、羽州街道は、現在のどこを通過していたのか。諸説ありますが、絵巻に描かれた沼、坂道などを手がかりに現地を歩いて探索してみたいかがでしょうか。



油田をのぞむ。このどこかに絵巻の坂が？

旧国道東の道

道幅、雰囲気注目！まさに古街道？



旧国道 東の道

馬の背状の道を進み、左の沼を過ぎると、右側に細い道が現れます。寺内の羽州街道は旧国道によりわかりづらくなっていますが、この道は道幅からも、いかにも羽州街道という雰囲気があります。太平山の見晴らしが良く、道ばたには庚申塚などの石碑、そして街道沿いで茶屋を営んでいたお宅があります。旧国道側には、慶応4年(1868)7月、秋田藩士に殺害された仙台藩士を慰霊する仙台藩殉難碑があります。碑文は勝海舟の筆によります。

西来院

確かにこのあたりだと思われるのだから…？



西来院

この羽州街道と思われる道が、旧国道と合流する手前にお寺が西来院(せいらいん)。境内には石碑が多く、江戸時代の年号もたくさん見ることができま。西来院は、もともとは太平山の近くの藤倉にあり、菅江真澄の紀行文によれば、享和元年(1801)に移転のための仮堂が建てられていたと記述されていますが、そのお堂は街道絵巻には描かれていません。



寺内焼窯跡

何やら煙が…？焼き物を売っている店も…



旧国道を進むと、街道絵巻では龍神堂があります。これは石龍神社とも呼ばれ、旧国道の左側の急な石段の上にあります。その先が現在は、寺内地区コミュニティセンター。街道絵巻では、このあたりに煙が見えます。天明7年(1787)、創業した寺内焼窯です。

寺内焼窯があり西来院の仮堂がないことから、街道絵巻は1787年から1801年の間の街道の姿を描いたものとも考えられます。次ページの五輪塔の情報もあり、1804年以降にはならないと思われます。その上で、八橋で紹介した松の若木を考えれば、さらに年代を絞れる可能性があります。



寺内焼窯跡

古四王神社

小高い丘の上に建ち並ぶお堂。



古四王神社の鳥居

寺内地区コミュニティセンターから少し進むと右側に小高い丘があり、社殿が見えます。古四王(こしおう)神社です。征夷大将軍坂上田村麻呂が再興したという伝承があります。文献資料では田村麻呂が秋田に来たことは確認されていませんが、田村麻呂の伝説は寺内を中心に秋田に広く伝えられています。

また、目を痛めた大彦命が高清水の霊泉で目を洗い治したと伝わっていることから、古四王神社は目を良くする御利益があると信じられています。



古四王神社



古四王神社前の通り

さて、街道絵巻と見比べながら石段を上りお参りしてみましょう。絵巻には本殿に至るまで、十王堂などのたくさんのお堂があります。現在も本殿の一段下には田村神社が残っており、田村麻呂を祀っています。

田村神社から石段を上ると、木立に囲まれた清浄な雰囲気のなかに社殿があります。街道絵巻では北を向いていますが、明治19年、外町の大火で延焼した後に再建され、現在は西向きになっています。古四王神社のお祭りでは、棒に米の粉を塗り、その付き具合によりその年の豊凶を占う、全国でも珍しい神事が行われています。

こらむ ガオドリの話

寺内には鳥にまつわる興味深い伝説があります。昔、田植えをしていた早乙女がご飯を食べていると、若い男が現れ、食べ物を分けてくれと頼みましたが、早乙女たちは若者をからかいました。怒った若者がかんなくずで鳥を作り空に投げると大きな鳥になりました。その後、田植えの時には、大群で現れ田植

えを邪魔したそうです。その鳥はダオダオ鳴くのでダオドリやダオンと呼ばれましたが、学名はニッパニアニッパン。一般にはトキと言う鳥です。昔、トキが大群で飛来していたという伝説です。寺内には、今も多くの野鳥を見ることができま。特にキジの多さには驚かされます。



市指定天然記念物のけやきの
大木。名前は朝日長者の
伝説に由来します。

阿倍比羅夫が古四王をまつた
時、突如、鳥とともに霊泉が湧き
出したと伝えられます。
現在は飲用できません。

昔は香木の伽羅で作られた橋で、
上方の船乗りか、かけかえを条件
に材木を引き取り大金持ちになっ
たと伝えられています。

秋田をきめ細かくめぐり、多く
の地誌や紀行文を著した菅江
真澄の墓、県指定史跡です。

最北の古代城柵・秋田城跡
(国指定史跡)の発掘調査の
成果が展示されています。

Goal

4分 2分 5分 2分 17分 5分

6 旭さし木

木の形が
なんとなく似ている？



現在の旧国道を離れ、古四王
神社の向かいから斜めに下り
ていく細い道をたどってみま
しょう。この道は街道絵巻に「古
道」と表記され、羽州街道以前
からあった道だと思われま
す。

古道を少し進むと右側に大き
な木が見えてきます。旭さし木
です。樹齢推定1,200年、市内最
古の樹木とされ、羽州街道を行
き交う人々はもとより、中世秋
田(安東・安藤)氏、古代秋田
城の時代を知る、「物言わぬ歴
史の生き証人」です。明治19年
の火事で根元の一部が焼かれ
ながらも、樹勢を回復し、今に
至っています。



7 高清水霊泉

泉で体を洗う人が見えます。
羽州街道の旅の疲れや
汗を流している？



高清水霊泉

旭さし木を後に、古道を進む
と右側の道沿いにけやきの巨
木が林立します。古四王神社の
別当寺であった東門院の跡で
す。絵巻でも巨木に囲まれてい
ます。その向かいの小道を下り
て行った所にあるのが高清水
霊泉です。羽州街道の時代の旅
人ものどを潤したのでしょうか。



高清水霊泉入口

8 香炉木橋

絵巻では
絶壁にかかる橋。



香炉木橋

下り坂を下りきり、上り坂に
変わる、すり鉢の底のような所
に、伽羅(きやら)橋、または香
炉木(こうろぎ)橋と呼ばれる
橋があります。

香炉木橋は、秋田県立美術
館に展示されている藤田嗣治の
巨大な壁画・「秋田の行事」に
描かれています。



香炉木橋遠景

9 菅江真澄墓

絵巻の時代、
真澄は元気に
旅をしていました。



菅江真澄墓

香炉木橋を渡ると県指定史
跡・菅江真澄墓の入口です。

石段を上ると寺内共同墓地
で、街道絵巻にも墓石がいく
つか描かれています。

現在の愛知県出身の真澄
は、文政12年(1829)に仙北で
亡くなり、友人であった寺内
の田村神社の神主、鎌田正家
の墓域に葬られました。



菅江真澄墓入口

10 秋田城跡歴史資料館

古代秋田城
復元ジオラマ。



石段を下り、古道に戻りま
す。道は、急な上り坂になり
ます。左側にお地藏様や二つ
並んだ五輪塔などを見て坂を
上り切り進むと、右側にまた
急な上り坂があります。

この急坂を上り切った所に
あるのが秋田城跡歴史資料
館。赤外線カメラを使い、漆紙
文書や木簡の見えない文字を
浮かび上がらせる「蘇る古代
文書解読体験」ができるのは、
全国の博物館・資料館でもこ
こだけです。

秋田城跡ボランティアガイドの会

時 間	4月1日から11月30日の 9:00 ~ 16:00
料 金	無料
申し込み先	史跡公園管理棟いつでも ※団体は希望日の5日前まで秋田城跡歴史資料館 (018-845-1837)に電話申し込み

11 秋田城跡史跡公園

テーブルのような
高清水の丘。
馬もいます。



さて、秋田城跡歴史資料館
から階段を下りて旧国道を渡
り、反対側の階段を上ると、秋
田城の政庁跡が一部復元され
ています。

街道絵巻では、羽州街道に
隣接し、草原が広がる平らな
台地として描かれています。
ここには今、秋田県護国神社
が鎮座しています。そして政
庁、大路、外郭東門、古代沼
井戸、水洗トイレなど
が復元された史跡
公園を散策すること
ができます。



史跡公園のみどころ



施設
秋田城の中心施設です。



東門
外郭の東の城門です。



古代水洗トイレ
奈良時代の立派な水洗トイ
レです。



「秋麻呂くん」
秋田城跡マスコットキャラクター

5 五輪塔

街道絵巻では、高清水の丘の端に五
輪塔が描かれています。土崎の港に入る
北前船の目印になったと伝えられる五
輪塔は、文化元年(1804)の地震で笠石
が壊れ、文化7年(1810)に再度の地震で倒れてし
まいました。街道絵巻では壊れていない姿で描か
れていますので、笠石が壊れる文化元年(1804)以
前の景色であることを示しています。

現在は、當福寺(旭北栄町)に正保元年(1644)
に建立された五輪塔が移設されています。この場
所からは、個性的な山並みを見せる男鹿の真山、本
山や寒風山を背景
に旧雄物川・秋田
運河が日本海に注
ぐ雄大な景色を眺
めることができま
す。夕日の景色が
最高です。



土崎 TSUCHIZAKI AREA

～ユネスコ無形文化遺産と
日本遺産に出会える港町～



林 立する帆柱、山積にされた米俵。秋田街道絵巻には、日本遺産に認定された北前船の寄港地のにぎわいが描かれています。秋田(安東・安藤)氏の中世城跡に鎮座する土崎神社。例祭・土崎神社祭の曳山行事は、ユネスコ無形文化遺産です。世界の宝、日本の宝

に出会える土崎。ユニークな旧町名、情緒豊かな寺町・山道通り、楽しい小路巡り。羽州街道が通る港町は、青森県の油川とここ土崎だけ。港と街道がおりなす歴史景観を楽しみましょう。

土崎神社祭の曳山行事





1 Start

秋田城跡 歴史資料館 駐車場

古代城柵の寺内から 港町・土崎へ

秋田城跡歴史資料館前のバス停・駐車場からスタートしましょう。高清水の丘から土崎に向かってゆるやかに道は下っていきます。

三叉路を左に進むと前方の視界が開け、港、そしてポートタワー・セリオンが目に入り、港町に向かう街道を歩いていることを実感します。



秋田城跡歴史資料館駐車場



港をのぞむ

2

三吉神社 遙拝殿

貴重な古写真



三吉神社遙拝殿(ようはいでん)

道の右側にあるのが三吉神社遙拝殿。たくさんの庚申塚があり、道の途中でぽっかりと昔の景色が残っているような場所です。

また、ここから見える港は、目線より上に、まるで空に浮かんだように見える不思議なビューポイントです。

3

御旅所

小高い丘に 巨木が見える



御旅所(おたびしょ)

やがて左に曲がる道2本。2本目の道に入り10分程歩いたT字路の右側が御旅所、港町の入口です。

土崎神明社祭の曳山行事では7月21日の昼、神輿が渡御し御旅所祭が行われる場所です。その年の全ての曳山が集まり、神輿をお迎えます。



御旅所祭

4

旧穀保町

米蔵の前に 山積みされた米俵

羽州街道は御旅所から土崎の町に入ります。ここは旧穀保(こくぼ)町。米蔵が建ち並んでいました。左側には急な斜面、断崖のようになっています。下の国道7号はかつての雄物川。秋田藩内の年貢米が集められ、北前船で大坂などに運ばれました。



旧穀保町の通り



秋田運河(旧雄物川)周辺

5

地藏院虚空蔵尊堂

絵巻とは 位置関係が ちょっと違う?



地藏院虚空蔵尊堂(こくぞうそんどう)の石段

道の両脇に家が連なる、いわゆる街道沿いの町という雰囲気。道を進むと右に石段が。北前船の船乗りが出航の天気を見た日和山(ひよりやま)の一つと言われる地藏院虚空蔵尊堂です。

石段を登った中段のお堂には巨大な仏像の顔が。明治の廃仏毀釈の時に壊され雄物川を流れてきたと伝えられています。

石段は緑っぱい笏谷(しゃくだに)石。福井でしか採れない石で北前船で運ばれてきました。



仏像の顔

このまち **のれんが楽しい!** **QRコードで拡大して見てみましょう!**

街道絵巻では、土崎が一番詳細に描かれています。店の看板・のれんが楽しく、①江戸新もの、江戸の名産品でしょうか ②たこ、赤い頭の絵も見えます。焼きたこでしょうか ③仕立 御望次第、オーダーメイドの衣服でしょうか ④名物 からやき、何かわかりませんが美味しそうです ⑤名代そば 切そうめん、土崎では、めんが人気だったのですね。QRコードで街道絵巻の看板・のれんと対比しながら歩いてみてください。

7月21日、昼は御幸奥山、夜は戻り奥山、土崎神社祭の奥山が連なる

小路探検!!
意外な発見があるかも!!

土崎の総鎮守。伊勢神宮にならい約20年に一度、遷宮を行っていました。

check!

Goal

Yeah!

6

7

8

9

23分(旧御蔵町から土崎神社まで)

9分

旧御蔵町から本町通りへ

御蔵町に
一里塚が見える



羽州街道を北に進むと旧御蔵町、旧新城町。街道絵巻ではここにも米蔵が建ち並びます。

土崎では、羽州街道は本町通りと呼ばれるメインストリートになります。旧上・下酒田町、旧永覚町、旧加賀町と続き、このあたりに廻船問屋が建ち並んでいました。

町の由来は、現地にある旧町名の標柱の解説をご覧ください。



旧下酒田町の標柱



本町通り

山道通りと港の小路

小路をぬけると
藩の出入役所



本町通り

そのまま北に進みますが、少し寄り道をして土崎のまち歩きを楽しみましょう。本町通りには、北に進んで右(東)、左(西)に入る小路がたくさんあります。左の小路に入ると国道7号。昭和13年に新屋に放水路ができるまでは、雄物川が流れ、川岸に荷揚場がある港でした。



旧雄物川河口への小路



山道通りへの小路



山道通り

国道7号を河口港とイメージすれば、羽州街道・本町通りは、港のすぐそばを通過していたことがわかります。右側の小路に入れば、本町通りと平行に走る山道通り。港の寺町です。細い道の両側に巨木の葉が茂り、たくさんのお寺が建ち並ぶ歴史情緒豊かな道です。



奥山の図がらのマンホール



山道通り 普導寺の龍

土崎神社

土崎神社、
沖合には
北前船が...



土崎神社

羽州街道・本町通りに戻って北に進み、旧小鴨町を過ぎて、旧肴町の標柱の先で右に曲ると土崎駅。その手前に土崎神明社が鎮座しています。中世、秋田(安東・安藤)氏の居城であった湊城の跡地に建立された土崎の総鎮守であり、例祭の土崎神明社の奥山行事(7月20日、21日)は国重要無形民俗文化財指定、ユネスコ無形文化遺産登録、日本遺産認定。港っ子が語り伝えてきた祭りです。



秋田市と北前船

秋田市は、古代には、秋田城が置かれ、北海道や大陸の渤海国(ぼっかいこく)などとの交流・外交拠点となり、中世には、日本の重要港がピックアップされた三津七湊(さんしんしちそう)のなかに秋田湊が含まれていました。海に活躍した大名・秋田(安東・安藤)氏の拠点となるなど、古くから日本海海運の重要港としての役割を果たしてきました。江戸時代には、土崎の湊が秋田藩の年貢米の集積・積み出し港となり、北前船の寄港地として栄えました。全国有数の北前船寄港地として日本遺産に認定された歴史は、地名、名字等も含め様々な形で遺されています。



土崎みなと歴史伝承館・道の駅あきた港

こちらも見比べて
みましょう。
湊町古絵図。



土崎神社から羽州街道に戻ります。

道はその後、飯島の較丁(こくちょう)、堀川、下新城中野を過ぎ、金足追分の三叉路で男鹿街道と分かれ、青森県の油川まで続いています。ひとまずウォーキングの案内はここまでとします。ゴールは土崎みなと歴史伝承館。

街道絵巻のパネルや北前船の模型、土崎神社祭の奥山行事や土崎空襲などの展示を見ることが出来ます。

1kmほど足を伸ばし、道の駅あきた港ポートタワー・セリオンの地上100mからの展望で、歩いてきた羽州街道を振り返ることもできます。



土崎みなと歴史伝承館

電話	018-838-4244
時間	9:00 ~ 17:00
観覧料	無料
休館日	火曜日(火曜日が祝日の場合は翌日) 年末年始 (12/29 ~ 1/3)



城下町を南に 楯山 牛島



①牛島の通り
近代和風住宅が多く残っており、
風情のある町並みが見られます。



②三皇熊野神社里宮
坂上田村麻呂が清水水周辺の賊
討伐を祈ったと伝わっています。



③羽州街道踏切
横手市の街道上にも同じ名前の
踏切があります。



④御茶橋
藩主の参勤交代の見送りや出迎
えにお茶を飲み交わしました。

秋田公立美術大学

仁井田から御所野へ



⑤仁井田堰
家老梅津憲忠が着手し、仁井田・
四ツ小屋の農地を潤しました。



⑥仁井田神明社
地区の開墾成就を祈願して創建
され、梅津憲忠が祀られています。



⑦横山の道
この道を越えれば、久保田城周
辺の平野を望むことができます。



⑧御所野八幡山神社
坂上田村麻呂に追われた大人
(巨人)の伝説が残っています。

至由利本荘市



秋田市への南の入口は河辺



⑨戸島
佐竹氏・津軽氏の本陣跡の標柱
が立てられています。



⑩岩見川
羽州街道は一の渡し、二の渡し、
三の渡しで岩見川を3度川越えし
ていました。



⑪田んぼの中を行く羽州街道
和田と橋から羽州街道の道筋が
見えます。



⑫和田
戸島宿とともに半月交代で宿駅を
務めていました。

秋田南IC

秋田空港IC

国際教養大学



土崎～追分



⑤金足 追分三叉路
北へ続く羽州街道と、西へ延びる男鹿街道がここで分かれます。



④下新城 中野
日本海に近く、肝煎の中川六右衛門が砂防林を植林しました。



③飯島 堀川の黒松
集落の端に立つ黒松の周りには、多くの石碑が立てられています。



②飯島藪丁 雲祥院
首なしのお地藏様が土崎空襲の悲劇と平和の大切さを伝えています。



①土崎相染
飯島方面へと続く街道の痕跡が、今もしっかりと残っています。



↑追分三叉路 ↑中野



↑堀川



↑藪丁

秋田街道絵巻 中巻

秋田街道絵巻では、八橋・寺内・土崎地区の様子が特に細かく描かれており、社寺や名所をはじめ、北前船で栄えた湊や街道沿いの商店、行き交う人々の服装などがよく分かります。絵巻はさらに北へと続き、能代で羽州街道と別れ、八峰町八森までの村々の様子が描かれています。上の絵巻きは、土崎から追分までを描いたものです。

このほかにも、安政元年(1854)の足栗毛に大仙市刈和野から土崎までの代表的な風景が、江戸時代後期の秋田風俗絵巻に久保田城下や周辺の村々の年中行事や風習がいきいきと描かれており、当時の様子をうかがうことができます。

Information



秋田市中心市街地循環バス「ぐるる」

運行時間 9:00~17:00 (上記地図を21周)

運賃 乗車1回または1周につき100円 (小学生以下無料)

1日乗り放題乗車券300円

秋田市交通政策課 TEL.018-888-5766

みるかネットぐるりん周遊バスでおとくに観覧!

秋田市文化振興課 TEL.018-888-5607

市内の9つの文化施設を周遊できる共通観覧券「みるかネット・ぐるりん周遊バス」を発行しています。1枚500円で各施設の観覧料合計より840円も割安! お求めは、実施施設の窓口でどうぞ(上の地図の●(ピンク)が実施施設です。)

実施施設 (全9施設)
 千秋美術館 / 赤れんが郷土館 / 民俗芸能伝承館 / 旧金子家住宅 / 佐竹史料館 / 旧黒澤家住宅 / 久保田城御隅櫓 / 秋田城跡歴史資料館 / 旧秋田藩主佐竹氏別邸(如斯亭)庭園

※千秋美術館→令和4年6月13日から令和6年6月まで休館予定
 佐竹史料館→令和4年6月末から休館予定

秋田市観光myタクシー

普通車4人乗りまたはジャンボ9人乗りのタクシーを3時間または4時間の時間単位で貸しきり、秋田市内に点在する観光地を自由に組み合わせて、周遊することができます。
 ※男鹿市・潟上市の観光地を含むコースもあります。

予約サイトURL	https://akita-mytaxi.jp	
料金 (秋田市内)	普通 (4人乗り)	3時間 7,500円
		4時間 10,000円
	ジャンボ (9人乗り)	3時間 13,000円
		4時間 17,000円
問合せ先	秋田市観光振興課 TEL018-888-5602	

秋田市内の見どころご案内!



※前日までにタクシー会社へのご予約が必要です。

秋田合同タクシー	018-864-1227
あさひ自動車	018-834-5555
キングタクシー	018-862-6677
国際タクシー	018-833-5931
タクシーセンターあい	018-823-1111
秋田港交通	018-845-1133
秋田中央タクシー	018-823-7474
勝平タクシー	018-823-8141
高尾ハイヤー	018-839-2231
浮田産業交通	018-888-9600

本ガイドブックは、鑑啓氏 (NPO法人あきた地域資源ネットワーク専務理事)・小国裕美氏 (久保田城址歴史案内ボランティアの会長) のお二人および、各文化財等の所有者のみなさまのご協力をいただき、下記の資料を参考に秋田市が作成しました。

菅江真澄 / 内田武志編『菅江真澄未刊文献集1』1953年、日本常民文化研究所
 吉田直也、吉田ハマ『秋田市の木と林と森』1972年、吉田直也、吉田ハマ
 寺内町誌編纂委員会『寺内町誌』1977年(復刻)、寺内史談会
 秋田市役所土崎出張所編『土崎町史』1979年(復刻)、歴史図書社
 渡部景一『秋田市歴史地図』1984年、無明舎出版
 秋田県教育委員会『歴史の道調査報告書VI北部羽州街道』1985年、秋田県教育委員会
 秋田県教育委員会『歴史の道調査報告書VIII南部羽州街道』1986年、秋田県教育委員会
 渡部景一『久保田城ものがたり』1989年、無明舎出版
 秋田県神社庁『秋田県神社名鑑』1991年、秋田県神社庁
 中野稔『史蹟の里「寺内」のはなし』1997年、三戸印刷所
 金森正也『近世秋田の町人社会』1998年、無明舎出版
 渡辺信夫監修『東北の街道-道の文化史いまむかし-』1998年、東北建設協会
 秋田市文化財保護協会『秋田市の史跡めぐり』2000年、秋田市文化財保護協会
 鑑啓『北前船おっかけ旅日記』2002年、無明舎出版
 藤原優太郎『羽州街道をゆく』2002年、無明舎出版
 秋田市『秋田市史第3巻近世通史編』2003年、秋田市
 秋田魁新報社編集局文化部編『時の旅四百年 佐竹氏入部』2004年、秋田魁新報社
 秋田市監修『青山くんの夏休み〜秋田市400年物語』2004年、秋田魁新報社
 加藤貞仁『北前船と秋田』2005年、無明舎出版
 金森正也『「秋田風俗絵巻」を読む』2005年、無明舎出版
 秋田市『図説秋田市の歴史』2005年、秋田市
 伊藤武士『日本の遺跡12 秋田城跡』2006年、同成社
 五十嵐典彦『あきたの町並みと町家-歴史空間の継承に-』2013年、秋田文化出版
 イザベラ・バード / 金坂清則訳『新訳 日本奥地紀行』2013年、平凡社
 宮本常一『イザベラ・バードの旅『日本奥地紀行』を読む』2014年、講談社
 秋田魁新報社『あきたの寺』2014年、秋田魁新報社
 秋田県立博物館『特別展 菅江真澄、旅のまなざし』2014年、秋田県立博物館
 飯村均・室野秀文編『東北の名城を歩く北東北編』2017年、吉川弘文館
 渡部景一『図説久保田城下町の歴史』2017年(復刻)、無明舎出版
 加藤貞仁『北前船寄港地ガイド』2018年、無明舎出版

